

***** 夏季アイパル子どもクラブ(第3回 7月11日)開催しました! *****

講師にセカンドハンドの後藤さんをお迎えし、貿易ゲームをしました。貿易ゲームとは、紙(資源)やはさみなどの道具(技術)を使って、指定された形の製品を制限時間内にできるだけ多く作り、お金を稼ぎながら、現実世界のものの流れ(貿易)を疑似体験し、そこに付随して起こってくる問題(貧困、情報格差、技術格差 etc...)について考えるワークショップです。



限られた道具で作業を進めていきます。足りない道具を手に入れるために、他のグループと交渉します。インクと物差しを交換したり、自分たちに足りない資源(紙)を買いに行くグループもありました。中には誰にも貸さないグループもあり、交渉の難しさを実感。



出来た商品を世界銀行に持って行き、換金してもらいます。世界銀行では、製品がうまく出来ているか厳しくチェックされます。規定通りでないものは換金されません。



最後に、セカンドハンドがカンボジアに対して行っている教育・医療支援のお話をききました。内戦後のカンボジアで、教育を受けられない子どもたち。自分たちと同じ年齢の子どもたち。学校の違い。「一人ひとりの力は小さくても、集まれば大きな力になります。」後藤さんのメッセージのこもった言葉が印象的でした。

～参加者の声～

- ①貿易ゲームがたのしかった。分担してお金をつくったから、みんな大忙しだった。
- ②いろんなものがなくて困った。いやだった。
- ③みんな貸してくれなかった。貸してくれなかったから貸し欲がなかった。
- ④カンボジアの人がこんなにも貧しいと思っていなくて、すごくびっくりしました。
- ⑤学校に行けて、ごはんも十分に食べられる国はほんの少しだったからびっくりしました。
- ⑥私たちは普通にテレビなどを見ているけど、貧しい国の人たちは生きるために一生けん命なんだなと思いました。